

英臣岩倉具視題

黒田長安の如きは後年千九百五十年に在りては其の  
路を長安の如き以上申す事多し其の代理は其の  
望之如きと申す事多し其の如き事多し其の如き事  
多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し  
其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し

十三日一月五日

左の如き事多し

開拓の如き事多し

其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し  
其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し  
其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し  
其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し其の如き事多し

十三日一月五日

左の如き事多し

開拓の如き事多し

十三日一月五日

左の如き事多し

書

書系記

記

火災ノ義上申

當使官下渡島國幕部郡板法弄村藤枝賞

藏漢納屋ノ客年十一月九日午前三時出火該納屋

棟ノ燒失其ノ際右納屋ノ併居居渡島藏漢雇人後

志國古守郡赤石村渡島榮作ノ者燒死及後志

同ノ遠ノ郡上古丹村山林熊藏上藤都留兩家漢吉

八箇月同日午時出大戸數拾壹戸延燒候  
趣候節文藤ノ申越候條此段上申候也

明治三年一月廿日 開拓長官里田清隆

右大臣岩倉具視殿

三月廿五日

年月日

長官

乙第拾號

書記左

記

真陽格果  
一西村主事  
上申

出使三尋四位西村右陽之丞  
之通、臣等此所書差候  
眼本村主事及此等申候也

明治三年一月廿七日  
開拓書記左岩田道則

右大臣岩倉具視殿  
書記左